

平成 27 年 11 月 4 日
在ポルトガル日本国大使館

東博史大使からのメッセージ

秋もたけなわの今日この頃、皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

ポルトガルでは、10月4日に総選挙が行われ、連立与党(PSD, CDS/PP)が勝利し、10月30日には、コエリョ首相による連立与党内閣が発足しました。他方、連立与党は国会で第一勢力ではあるものの過半数には届いていないため、11月10日前後に同内閣が国会に提出する「政府プログラム」が採択されるか否かに注目が集まっています。

この様な中ではありますが、今月号では、最近の9月、10月の二国間関係強化の動きとして、「日本国食品安全委員会とポルトガル共和国経済食品安全庁との間の協力覚書の調印式」、「第一回グローバル・寿司・チャレンジの開催」、「オリエント財団に対する外務大臣表彰伝達式の実施」、「ポルトガル商工会議所主催 日本への輸出・投資セミナーの開催」、「日本人会主催政治・経済勉強会（東大使講演会）」について御紹介したく存じます。

●日本国食品安全委員会とポルトガル共和国経済食品安全庁との間で協力覚書の調印式

9月17日、日本国食品安全委員会とポルトガル共和国経済食品安全庁との間で協力覚書の調印式が、リスボンの経済省にて実施されました。この調印式に、レオナルド・マティアス経済省副大臣とともに私も同席致しました。

本件は、昨年5月、安倍総理のポルトガル訪問の際に、「共同声明」の中で「食品、農産物、畜産分野での協力」が盛り込まれたのに続き、本年3月のコエリョ首相訪日の際の共同声明の進捗に関する「ファクトシート」の中で言及された、「食品安全の分野におけるリスク評価機関間の協力」の具体化の原点と位置づけられるものです。

「食品安全の分野」における両国のリスク評価機関間の協力が進展すれば、将来的には、農産物を初めとする「食品」の両国間の貿易の促進、引いては「食品」関連分野における投資促進にもつながることを期待しております。

●第一回グローバル・寿司・チャレンジの開催

9月16日から18日まで、リスボンにおいて、「グローバル・寿司・チャレンジ」が開催されました。

「グローバル・寿司・チャレンジ実行委員会」（構成団体：一般社団法人国際すし知識認証協会ノルウェー水産物審議会）主催で、日本から国際すし知識認証協会の2名の寿司職人をお迎えして、16-17日、ポルトガルの寿司シェフに対する「寿司セミナー」、18日には、寿司シェフのコンクールが行われ、私も「寿司セミナー」の冒頭で挨拶すると共に、寿司シェフのコンクールの審査員のひとりとして参加致しました。

日本の伝統食である寿司は、今や各国の食文化と融合し、世界中の人々に親しまれています。

他方、寿司作りに必要な優れた技術と衛生管理技術の普及が喫緊の課題となっています。

このため、寿司の伝統と技術、そして衛生管理の知識普及に努める「国際すし知識認証協会」とノルウェー水産業界のマーケティング組織である「ノルウェー水産物審議会」の2団体は、世界中の寿司シェフの知識・技術の向上を目的として「グローバル・寿司・チャレンジ2015」を開催することになり、ポルトガルも開催国のひとつになりました。

寿司シェフ・コンクールの予選大会は、米国、韓国、シンガポール、台湾、インドネシア、ドイツ、日本、ポーランド、ポルトガル、スペイン、英国、スウェーデン、ノルウェー、フランスの14カ国で開催され、11月25日に東京で決勝大会が開催される予定とのことです。

ポルトガルでは、「寿司セミナー」に約30名の寿司シェフが参加しました。

同セミナーでは、寿司の歴史をはじめ「生魚」の扱いをはじめとして衛生管理技術に重点をおいた講義が実施され、同セミナーの最後に「試験」が実施され合格した寿司シェフには、「認定証」が授与されました。

また、寿司シェフのコンクールでは、江戸前すしの調理に関する知識・技能の実演30ポイント及び創作すしの実演70ポイントで行われました。

審査基準としては、調理および盛りつけの手際、味や全体のバランスに加えて、盛りつけ方法、ネタの切り方・握り方、切断面の美しさ、シャリのまとまり、それぞれの食材のバランス、旨みの引き出し方に加えて、手を洗う、手酢をつける等作業の「衛生管理」、包丁の置き方や「ねた」の整理整頓、後片付け等にも留意されており、審査基準にも「日本文化」の素晴らしさが反映されていると感じました。

この寿司シェフのコンクールには、12名のシェフが参加しましたが、私から見てもいずれもレベルが高く誰が「優勝」してもおかしくないレベルと感じました。

国際すし知識認証協会から来られた2名の寿司シェフも「ポルトガルの寿司シェフのレベルは非常に高い」とのお墨付きを頂きました。

皆様も御存知のとおり、ポルトガルでも寿司ブームが起こっており、寿司をはじめとする日本料理店と称する店が増えていますが、中には「本当に寿司の技術を学んでいるのか疑問符のつくような」店もあり、「食中毒」事件でも起これば「和食」のイメージダウンにもつながりかねないと心配していましたが、今回の寿司セミナー、コンクールを通して、ポルトガルの寿司シェフに、寿司の伝統と技術、そして衛生管理の知識を伝授頂いたことは、ユネスコの世界遺産にも認定された「和食」文化の普及に大きく貢献するものであると感じました。

今回は「第一回」の「グローバル・寿司・チャレンジ」であり、明年以降も実施予定とのことであり、ポルトガルにおいても、今後も更に「真正」の寿司シェフが多く誕生することを期待致したく存じます。

●オリエント財団に対する外務大臣表彰伝達式の実施

10月20日、大使公邸に於いて、オリエント財団に対する外務大臣表彰伝達式が行われ、私から、同財団のモンジャルディーノ会長に表彰状を伝達いたしました。

(同伝達式の模様、詳細については、今月号の「大使館だより」を御覧下さい。)

伝達式には、モンジアルディーノ・オリエン特財団会長、バレット・シャビエル文化担当副大臣、マルティーニョ外務次官、ガマ元国会議長、アマード元外務大臣、フェラース前駐日ポルトガル大使ら錚々たる政治家、文化人が出席しました。いずれの出席者からもポルトガルにおける日本文化に対する関心の高まり及び日本文化紹介の重要性について言及がありました。今後ともオリエン特財団はじめポルトガルの各文化団体と協力して日本文化紹介事業を推進するとともに、各団体を「顕彰」していきたいと存じます。

●ポルトガル商工会議所主催「対日輸出・投資セミナー」の開催

10月29日、ポルトガル商工会議所主催「対日輸出・投資セミナー」が実施され、私も参加いたしました。

同セミナーでは、ブルーノ・ボボヌ・ポルトガル商工会議所会頭及び私から、開会あいさつを行ったのち、歴史家のジャイメ・ノゲイラ・ピント氏から日本とポルトガルの歴史的関係の説明、その後池森ジェトロパリ事務所長から日本経済の現状と展望及び日本への「直接投資」の魅力についてプレゼンテーションが行われました。

そして、ベッサ・ポルトガル・日本商工会議所会頭から日・ポ経済関係及びポルトガル企業にとっての日本への進出の秘訣、魅力等についてプレゼンが行われました。

その後、日本との貿易に経験を有するポルトガル企業及び今後日本に投資・進出するポルトガル企業の代表によるラウンドテーブル及び質疑応答が行われました。

私は、開会あいさつの中で、「日・ポ間には、鉄砲伝来以来の470年以上の関係がある上に昨年、本年の2年間の間に両国首相の歴史的な相互訪問が実現し、これにより両国関係は、政治・経済・文化等あらゆる分野で関係の緊密化が進んでいる。特に、貿易投資関係について、JETROとAICEPの間で協力強化の覚書が締結されている。更に、昨年、日本がポルトガル語圏諸国共同体にオブザーバー加盟したことから、両国企業が、アンゴラ、モザンビーク等CPLP諸国をはじめとしてEU諸国、アジア諸国等第三国における協力の可能性が広がっている、このセミナーを契機として、両国間の貿易投資の促進につながることを期待している」と述べました。

「ラウンドテーブル」では、日本進出にあたっては、日本文化の理解が不可欠であり、「納期を守る」「品質の重視」「パッケージング」のデザインの重視等に配慮するとともに「信頼の確立」が最重要であるとの点が指摘されました。また、日本企業との新たな関係確立や新規事業の立ち上げには比較的時間はかかるが、一旦「信頼関係」が確立すれば長期的な関係を保つことができる。等が指摘されました。

更に、ポルトガルの産品を日本で販売するに当たっての問題点について議論。日本では、1543年の鉄砲伝来の事実をはじめ「ポルトガル」の国名や歴史的な関係についてはすべての日本人が知っているが、ポルトガルの産品はほとんど知られておらず、ポルトガル産のワイン、オリーブオイル、イベリコ豚、トマト等が世界レベルでも高品質で価格も安いという点を日本国民に知らせていくことが最重要との指摘が行われました。

このように、同セミナーでは、今後の日・ポ間の貿易投資促進について有益な指摘・アイデアが示され、今後もこのような意見交換の場を設けていくべきだと感じました。

●日本人会政治・経済勉強会（東大使講演会）

10月30日、ポルトガル日本人会政治・経済勉強会が開催され、私は、「最近の日本・ポルトガル関係とポルトガル政治情勢」と題して講演いたしました。同講演会には日本人会・法人会員、個人会員等20名が出席しました。

同講演で、私は、「日・ポ間には、鉄砲伝来以来の470年以上にわたる日本ポルトガルの交流の歴史として、天正遣欧少年使節団の果たした役割に言及するとともに、昨年、本年の2年間に両国首相の歴史的な相互訪問が実現し、これにより両国関係は、政治・経済・文化等あらゆる分野で関係の緊密化が進んでいる。特に、貿易投資関係について、JETROとAICEPの間で協力強化の覚書が締結されている。今後期待される二国間の協力分野の例として。イノベーション分野、グリーン・エネルギー分野、海洋(ブルー)分野、防災分野について説明。更に、昨年、日本がポルトガル語圏諸国共同体にオブザーバー加盟したことから、両国企業が、アンゴラ、モザンビーク等 CPLP 諸国をはじめとして EU 諸国、アジア諸国等第三国における協力の可能性が広がっている」旨述べました。

また、最近のポルトガルの政治情勢について、10月4日の総選挙の結果と新政権の課題、今後想定されるシナリオについて見通しを説明しました。



11月に入り、このメッセージの冒頭でも言及しましたとおり、「ポルトガルの政治情勢の推移」に注目する必要があり、その進展の状況を皆様にお知らせするように努める所存です。他方、このような状況の中にあっても、ここ2年間に、安倍総理のポルトガル訪問とコエーリョ首相訪日という両国首相の相互訪問によって生じた両国関係の飛躍的拡大のモメンタムを維持しつつ両国関係の拡大に努めたく存じますので、引き続き皆様の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

季節の変わり目でもあり、皆様におかれましては、御自愛の上御活躍頂きますようお願い申し上げます。